

○ 草の根パートナー型

平成21年度第一次補正予算による草の根技術協力事業 緊急経済危機対応-包括型採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	パプアニューギニア国
2. 事業名	東セピック州における村人による健康改善プロジェクト ～女性と子どもの生命と健康を自分たちの手で守ろう～
3. 事業の背景と必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 深刻な健康問題 東セピック州は湿地帯と大小の河川が密に分布している。対象地域であるサラングアンドゥも大きな川が近くを流れてはいるが、水質が悪いため住民は安全な水へのアクセスがなく、水を原因とした下痢などの消化器系の疾病や皮膚・眼科系疾患に苦しんでいる。マラリアをはじめとした感染症も多く、HIV/エイズの脅威も年々深刻になりつつある。トイレもほとんどなく、雨期には洪水も頻繁に起こるため衛生環境は非常に悪い。出産時の母子の死亡率も高く、村での安全な出産体制が強く望まれている。村内に病院やクリニックはなくヘルスワーカーも十分にいないため、医療機関へのアクセスも大きな問題となっている。 ・ 緊急の課題 安全な水の供給、および村の衛生環境の改善とマラリア対策、安全な出産体制の確立が強く望まれており、これらを通して住民、特に女性と子どもたちの生命と健康を守ることが緊急の課題である。 ・ 留意すべきこと これらの活動を住民が主体的に行い、将来にわたり自分たちの力で持続的開発を進めていく体制をつくることが重要となる。
4. 事業の目的	安全な水供給と衛生環境の改善、マラリア対策、安全な出産体制の確立を通して女性・子どもを始めとした対象地域住民の健康状態が改善すること、そしてこれらの活動を住民が主体的に行うことで、将来にわたり自力で持続的開発を進めていけるような体制をつくることが事業の目的である。
5. 対象地域	東セピック州ウォセラ・ガウィ郡サラングアンドゥの7つの村
6. 受益者層	対象地域の全住民（部族、氏族、宗教に関わらず）。推定裨益人口約7,000人。特に身体的にも社会的にも弱い立場にある女性たち及び子どもたちが最大の受益者となるよう配慮する。
7. 活動及び期待される成果	<p>自力による持続的開発の体制づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーシップ・トレーニングを通してコミュニティのキャパシティ・ビルディングがなされ自力による持続的開発の基盤ができる。 <p>保健衛生環境の改善</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健衛生教育訓練により対象地域住民の衛生管理能力が形成され、トイレ設置・蚊帳配布を通して衛生環境が改善される。 2. 村落ヘルスボランティア（VHV）養成訓練により村における安全な出産・母子保健体制が整備される。 <p>安全な水の供給</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象地域住民の安全な水のアクセス人口が増加する。 2. 水施設維持管理の教育訓練により対象地域住民の維持管理能力が形成される。
8. 実施期間	2009年10月～2012年3月（2年6ヵ月）
9. 事業費	50,000千円
10. 事業の実施体制	救世軍社会事業団（社会福祉法人）が実施責任を持つ。同団体職員の日本人プロジェクト・マネージャーの指揮の下、同国でコミュニティ開発プロジェクトの実績を持つ「救世軍パプアニューギニア」（公益財団）をカウンターパートとして、実施を行う。
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	社会福祉法人 救世軍社会事業団
2. 活動内容	貧困層及び身体的・精神的・社会的弱者への福祉支援活動。 （福祉施設運営、コミュニティ開発支援、災害緊急支援他）